

# 小中学校で教員不足深刻

## 産休・育休の替わりが来ない 過酷な労働環境改善が不可欠

小郡市議会議員 しんばる善信後援会だより

# つなぐ

発行  
しんばる善信後援会  
小郡市小郡1304-2  
0942-73-2123



### 教頭などのやりくりで急場をしのご

小郡市の小中学校では、昨年4月、6名の先生が足りないまま新学期がスタートしました。先生のなり手が足りないのです。仕方なく、教頭や担任を持たない主幹教諭などを交代でやりくりして、指導するという異常事態が続きました。その後、順次、常勤、非常勤の講師を見つけてきて補充しましたが、全部を補充できたのは年が明けた1月のことでした。しんばる議員は、教員不足の原因と対策について質問しました。



### 教員不足で働く環境一段と悪化

先生が足りない学校では、教頭などが臨時に担任業務をしています。これにより、学校全体にかかる業務負担が増え教職員の時間外勤務が増えていきます。

### 働く女性の権利なのに産休・育休にたいがい

近年、若い教員の採用が

増えたため、産休、育休をとる先生が増えました。ところが、替わりに来てくれる先生がいないのです。出産を考えている先生たちから、「子どもたちや学校に迷惑をかけるので、子どもを産むのをためらいませぬ」との声が聞かれます。

### 業務量の大胆な削減必要

学校の年間指導計画は、国が定めた最低限の授業時数をもとに各学校それぞれ「教育課程」として編成されます。文部科学省は、学校の職員体制に見合った計画をつくるよう指導しています。しかし、小郡市の小中学校の中には、無理な計画をつくり子どもや職員に過度の負担がかかっている実態があります。人員配置できないなら、業務を減らすのがマネジメントの基本ですが、そうならないのが学校現場の現実です。このことが働き方改革の大きな妨げになっています。

### 授業準備の時間はなし

学校では、よく「質の高い授業」といいます。そのためには子どもの実態に合わせ、教材を用意し、指導の流れをつくるというのが基本です。本気でやろうとすれば、1時間の授業をするのに、最低1時間位の準備が必要です。しかし、学校にいる間、全くと言っていいほど授業準備時間は取れません。ほとんど持ち帰りというのが実態です。

### 教育委員会指定研究が負担に

小郡市教育委員会は、25年以上前から毎年、学校回して指定研究発表会を続けてきました。学校現場からは、研究より目の前の子どもに向き合う時間が欲しい、資料づくりの負担が大きいのではと止めるべきという声が出てきました。しかし、教育委員会は、今後も継続するとの立場を崩していません。

# たとえ一人になっても

## 安心して住み続けたい

### 一人暮らし高齢者3815世帯

※小郡市の総世帯数25047世帯

#### 急がれる地域での見守り体制づくり 民生委員を補佐する福祉協力員への支援必要

高齢化が進む中、一人暮らしの高齢者が急増しています。最近、コロナ禍で近所との付き合いや外出が控えられ、身体の機能低下、孤立化が心配されます。小郡市では、これまで社会福祉協議会が民生委員らでつくるふれあいネットワークを支援しながら高齢者の見守りやサロン活動を行ってきました。しかし、見守り対象者は増え続け、民生児童委員だけでは対応できなくなっています。しんばる議員は、今後、新たな見守り体制をどのようにしていくのか市の考えをたどりました。

#### 見守り対象者 一人で96人の所も

各行政区で高齢者の見守り活動の中心を担っているのは民生児童委員の方々です。増え続ける高齢者に対し、民生児童委員の負担は限界に達しています。行政区の中で最も多いところは、民生委員1人当たりの見守り登録者数が96人にもなっています。到底対応できる人数ではありません。

このような重く厳しい負担の状況を改善するため、多くの行政区で独自に福祉



協力員をつくり、民生委員の支援をしています。

#### 市内約7割に福祉協力員

市内約7割の行政区で福祉協力員が民生児童委員と協力して高齢者を見守る活動をしています。それぞれの行政区で人数、選任方法、活動費など様々です。これらの人々によって小郡市の高齢者見守りは成り立っているのです。

#### 小郡市に支援制度求める

近隣では、このような福祉協力員に対し、市が活動費や研修の支援をしているところが多くあります。小郡市の民生委員児童委員協議会は、数年前から小郡市でもこのような支援制度をつくってもらいたいと市に求めてきました。

しかし、小郡市は「福祉協力員制度は、行政区によって適、不適があり全行政区で画一的な制度づくりは困難」として応じていません。それでは代わりにどうしていくのかという疑問にも十分答えていません。

#### 市は住民みんなで見守るといっけれど

市の担当者の答弁は、「地域における日頃の生活や自治会活動の中で見守り体制が構築できるように、区長をはじめとする各行政区に働きかけていきたい」と抽象的です。みんなで見守るって聞こえはいいのですが、かけ声だけでは具体的な動きにはつながらず単なる心構えに終わってしまいかねません。具体的にどんな見守りのしくみをつくっていくのか極めてあいまいです。

#### 小郡市は具体的なプランを示せ

それより、すでに約7割もできている福祉協力員へ支援するほうがよっぽど早道で合理的です。小郡市にはもっと、はっきりした展望をもってリードしてほしいと思います。今後引き続き、具体的な行動を求めていきます。

## ロシア非難決議全会一致で採択、ロシア大使館に送付

# 許されない、ウクライナへのロシア軍事侵攻



**まさか21世紀に、こんな暴挙が起るとは！**

連日、報道されるウクライナの惨状。攻撃で破壊された街並み、悲痛な表情をうかべる避難者の姿を見るたびに心が痛みます。それに比べ、いつもと変わらぬにぎわうモスクワのまちの様子、プーチン大統領を支持する大多数のロシア市民、両者の落差に愕然とさせられます。政府が自分に都合のいい情報だけを流すと、国民はこうなってしまうのだという現実を見せ付けられています。互いの人権を尊重し話し合いによって世界の平和を築こうとしてきた私たちに對する許しがたい挑戦です。いてもたってもいられず、ロシア非難決議をつくり、小郡市議会に提案しました。すぐに全員の賛同を得、採択することができました。

### 非核3原則の国 ウクライナと日本

核兵器を「持たず、つくらず、持ち込ませず」1967年に国会で決議された非核3原則です。唯一の被爆国日本の国是となつていきます。世界でもう一か国、同じような非核3原則を持っている国があります。それがウクライナです。核兵器を持たないのでロシアに侵略されたなどという乱暴な議論を許さないためにも、絶対にロシアの侵略を見逃すことはできません。

### ロシアによるウクライナ侵攻を非難する決議

ロシアは去る2月24日、外交による問題解決を模索した国際社会の努力を踏みにじり圧倒的な軍事力を持ってウクライナへの軍事侵攻を開始し、理不尽な軍事行動を展開している。これによってウクライナ国民の生命、身体、財産が著しく脅かされ、子どもを含む多くの国民の犠牲が増え続けている。また150万人を超える多くの難民が生じている。さらに、ロシア政府は自国内での反戦運動を力で弾圧し、ロシア国民の人権をも侵害している。

ロシアによる軍事侵攻は、領土の一体性の侵害と武力の行使を禁じた国連憲章及び国際法に明確に違反するものである。このような力による現状変更の試みは、相互理解と信頼構築によって平和を希求する日本国民および国際秩序への明らかなる挑戦であつて、断じて許されるものではない。

さらに、ロシアは、核兵器禁止を求める世界の人々の願いを無視して核兵器の使用を示唆した。こうした威嚇や挑発は、すべての人類と文明社会への挑戦というほかに、唯一の被爆国である日本国及び非核宣言都市である小郡市としては断じて看過できない。加えて、稼働中の原発を攻撃、占拠する暴挙に及び、いよいよ国際社会への脅威を増幅させている。

よつて、小郡市議会は、ロシアによるウクライナ侵攻を厳しく非難し、ロシアに対し、軍を無条件で即時に撤退させることを強く求める。また、日本政府に対しては国際社会と緊密に連携し、問題解決に積極的に関与するとともにウクライナに滞在する邦人の保護に全力を尽くし、人道的な観点からウクライナの人々に対する必要な援助に取り組むことを求める。

以上、決議する。

令和4年3月8日

福岡県小郡市議会



### この1さつ



度十公園林

宮沢 賢治 著

「雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ」で有名な宮沢賢治の童話です。主人公の度十は、いつも静かにはあはあ笑っていて、周りから馬鹿にされていきました。度十は裏の野原をコツコツ耕し杉の苗を700本植えます。やが

て、その杉林では、近くの小学生たちが毎日遊ぶようになりしました。それを見て度十も喜んで笑います。度十は、まもなくチフスで死んでしまいます。15年後、そこで遊んだ小学生がアメリカの大学教授になって帰っ

てきます。彼は杉林で遊ぶ小学生を見て感慨深そうにつぶやきます。「あゝ全くだれがかしこくだれが賢くないかはわかりません。」宮沢賢治の透明で澄んだ思想に触れるお話で、深い余韻が残ります。

既存商店への影響、地価上昇など多角的に検討しておかなければならないことがいっぱいあるはず。既成事実を積み重ね、なし崩しに進められているように、これでいいのかとの不安が残ります。（よし）

# 小郡市制50周年

## あのとき予想した小郡市の姿は 今…

昭和47（1972）年4月1日、小郡市が誕生しました。今年で50周年を迎えます。当時高校1年生だった私は、高度成長時代の空気もあって何となくウキウキした気分であつたように記憶しています。その後50年の間に、まちの姿は大きく変貌しました。あのころ小郡駅前にあつたお店もそのほとんどがなくなり、新しい店やマンションに変わってしまいました。当時みんなが思い描いた小郡市の50年後の姿は、必ずしも想像した通りにはなっていないかもしれません。将来予測は本当に難しいと思います。では、これから先の50年をどう展望するのか、それはこれからの私たちに課せられた課題です。（しんばる善信）

### 50年前、3つの政策議論

小郡市元年（昭和47年）の議会では、大きく3つの問題が議論されていきました。

#### ①中九州ニュータウン開発

小郡市北部の丘陵地帯を開発して一大住宅団地をつくるというものでした。現在の三国ヶ丘、希みが丘、美鈴が丘です。今では、人口約1万5千人、小郡市の4分の1が住んでいます。

#### ②九州横断自動車道建設

鳥栖インターから小郡市を横切り大分までつながる現在の大分自動車道です。現在、小郡インター周辺の開発が盛んです。

#### ③西鉄小郡駅前区画整理

狭い道路の両脇にならぶ商店を整理し、道路を広げ小郡の顔としての駅前通りをつくろうというものでした。現在すっかり人通りが絶え閑散としています。

### 議員として小郡市制50周年に想う

- ◇50年後の予測難しい、それでも予測する
- ◇とにかく議員は未来を大いに議論するべし
- ◇超高齢化でも暮らしていけるまちを考える
- ◇ここで生まれ暮らし続ける方法を模索する
- ◇目先の利益だけにとらわれない政策を考える

### 議案がもたらす

コストコが来るって？

土曜日、突然、市役所からの電話。「急ぎよ、コストコの社長と小郡市が立地協力協定を結ぶことになりました。議会質問期間中ですが、来週木曜日の昼休みに社長が来るそうです。火曜日に、議会に説明します。」というもの。「えっ、何それ？」何日か前、コストコ進出が取りざたされている地域のまちづくりをどうするか調査会社に委託する予算を議論したばかり、まだ可決もしていません。コストコが来ること自体、反対ではありませんが、もつと将来見通し、交通渋滞や既存商店への影響、地価上昇など多角的に検討しておかなければならないことがいっぱいあるはず。既成事実を積み重ね、なし崩しに進められているように、これでいいのかとの不安が残ります。（よし）